

岩魚
ヤマベ

〔倭訓栄中編二〕いはな 美濃の極山中に居魚也。いもほりともいふ、赤もつに似たり、大なるは一尺餘に及ぶものあり、是飛驒のさゝ魚成べし。

〔重修本草綱目啓蒙二十九〕嘉魚 イハナ津輕 一名寐魚 通雅

奥州津輕山溪ノ深淵中ニアリ、巖穴ニ居ル故ニイハナト名ク、形鱈魚ニ似テ小ク、白色ニシテヤマベノ如クナル斑紋ナシ、甚ダ油脂多シ、焼トキハ油流ル、コト鰻鱈魚ヲ燒ガ如シ、秋月多ク捕フ、ヤマベハ津輕ノ方言ニシテ、京師ニテハアマゴト云、一名ミヅグモ、アメゴ、伊州イモコ、若州ヒラツコ、和州白ヤマガハ、舟後ヤマコ、同上エノハ、大和本草、雲州ノハハ別ナリ、形香魚ノ如ク、長サ七八寸、身ニ黒斑及ビ細朱點アリ、鱗細ナリ、奥州和州及他州ニ産スル者ハ、黒斑ノミニシテ朱點ナシ、是廣東新語ノ似嘉魚ナリ、

〔兼葭堂雜錄二〕飛驒の國の山中に生ずる筍ありて、春の下旬にいたりて、筍の節よりして筍を生ず、其形恰も魚の如し、斯て五月雨ふりつゞく頃自ら落て溪に入化して魚となり、水中を遊ぐ、是を岩魚といひ、篠魚といふ、大概鱈に二年ばかり歴たるが如く、漁て食するに味ひ又鱈に彷彿たりとぞ、先年加賀の國人、溪水に竹の葉の半魚となりて、遊ぐを見しと語りしも、是等の類なるべし。

〔日光山志四〕日光諸處の名産 魚蟲○中 岩魚 大谷川に生す、
ワカサギ

〔物類稱呼二〕物類稱呼動物 和加佐幾わかさぎ 駿河にてすゝめの魚伯耆にて志らさぎ、常陸にてさくらうを、若狭にてあまさぎと云、今按にわかさぎ、又あまさぎ同物也、若州三方の湖中に多くこれを獵す、又常州櫻川に櫻魚と云有、是江戸にていふわかさぎ也、

〔本朝食鑑七〕河湖有鱈 鮓略○中

江東別有若鷺者、相似非一種、此亦美賞之、